



エンサイス スナップショットデータ (薬価基準ベース)

2019年度 (2019年4月～2020年3月)

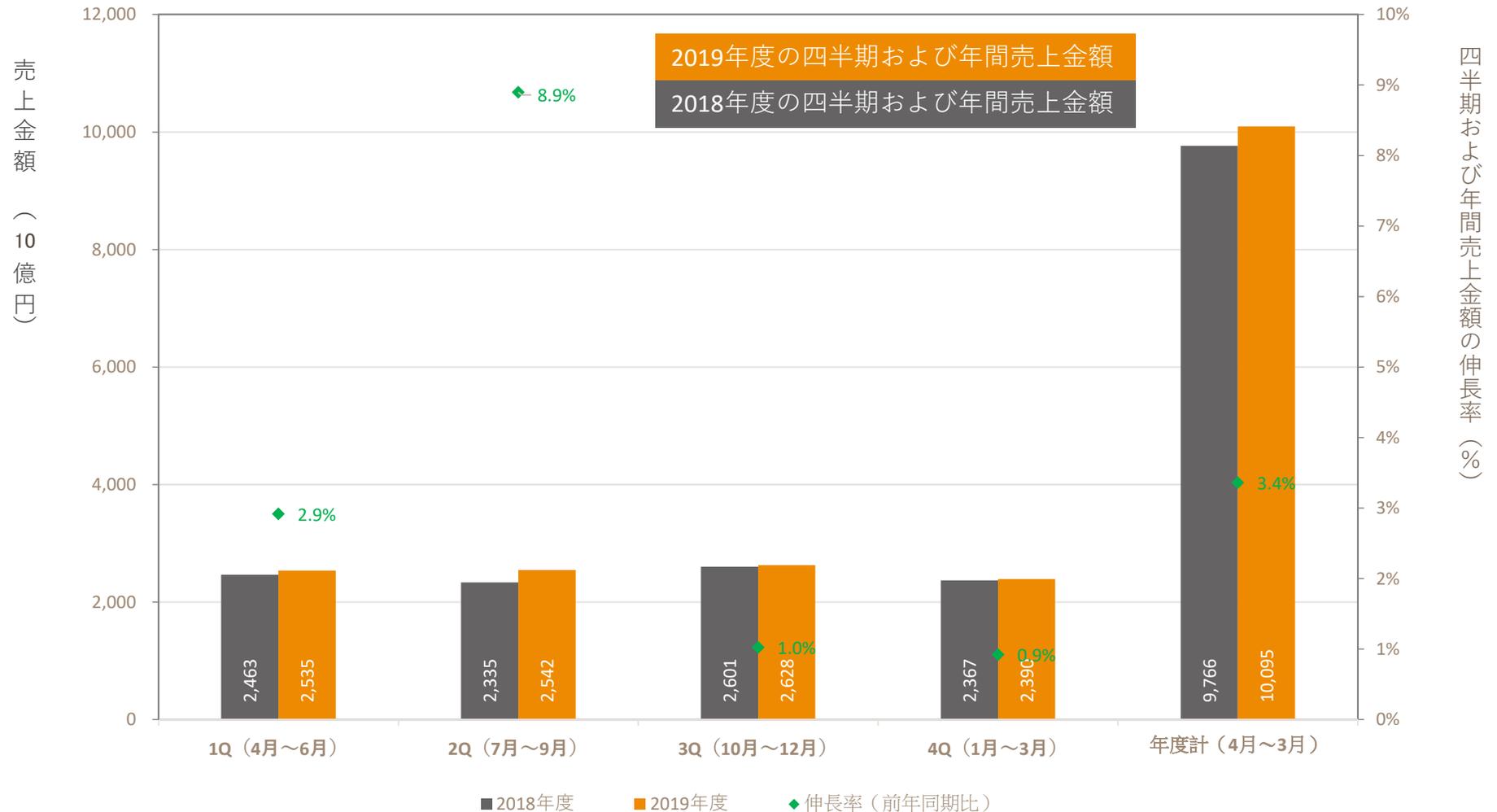
本レポートは、エンサイスが収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、エンサイスは本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

Encise | Research Center
Monitoring Pharmaceutical Industry for the Society

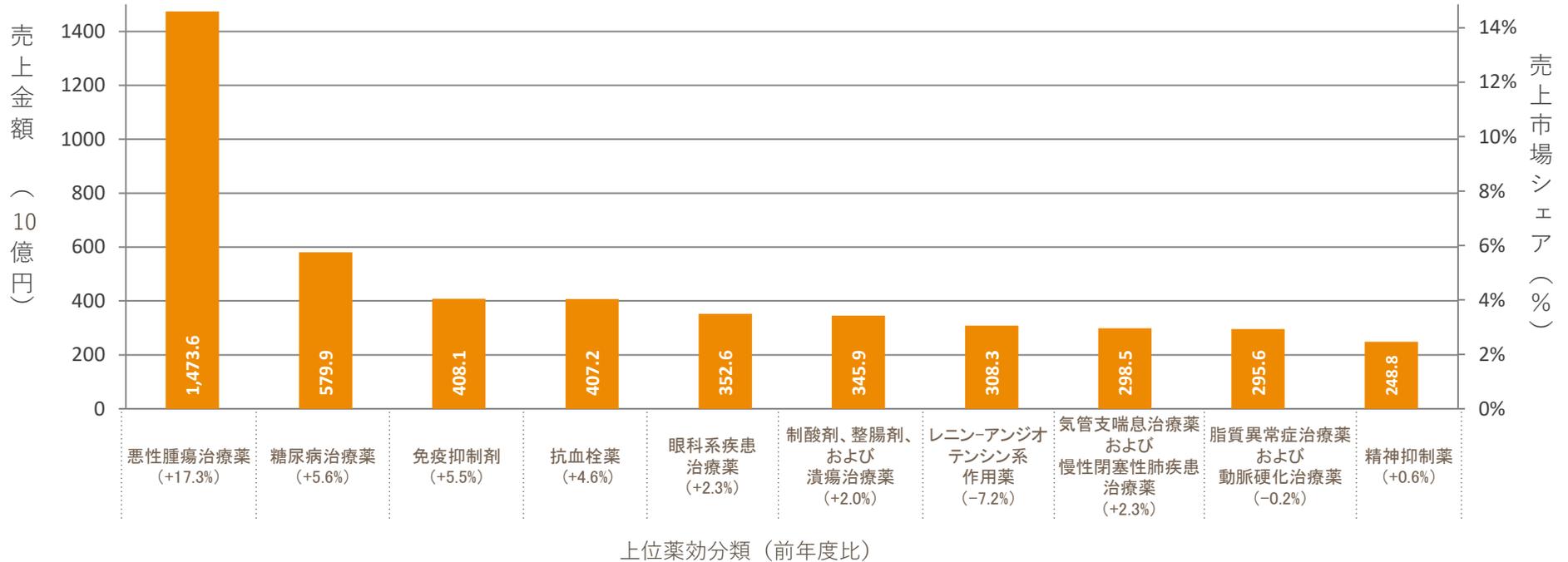
Copyright © 2020 Encise Inc. All Rights Reserved.

FOR THE NEXT GENERATION. FOR THE PATIENTS.

2019年度医療用医薬品市場（四半期別実績及び年間合計）

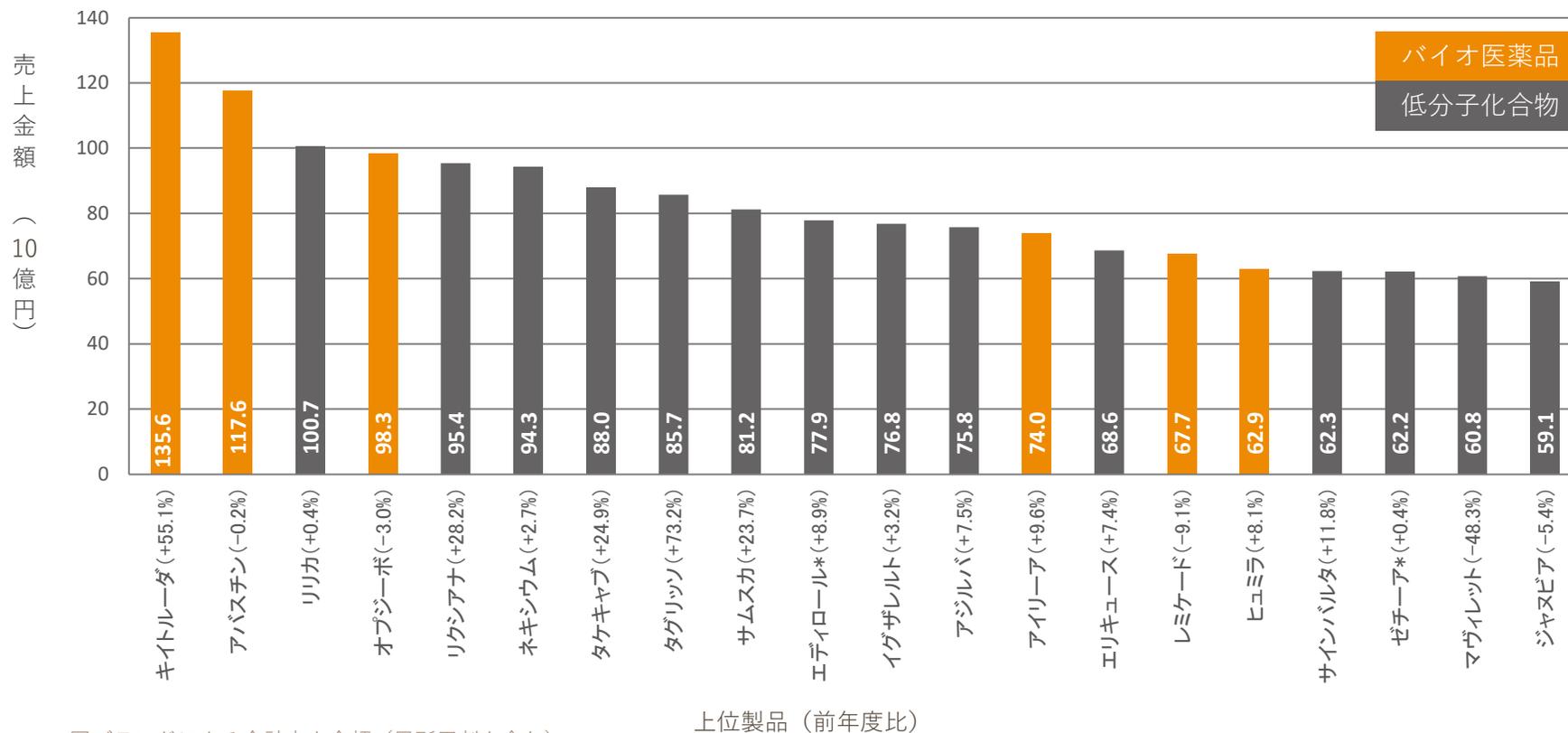


医療用医薬品売上上位10薬効分類



- 上位10薬効分類の総売上は4兆7,185億円（前年度比4.7%増）、医療用医薬品総売上の46.7%を占めている。
- 悪性腫瘍治療薬は医療用医薬品市場全体の14.6%を占め、二桁成長を続けている（前年度比17.3%増）。世界の新薬パイプラインは豊富であり、今後も成長が見込まれる。
- 悪性腫瘍治療薬市場の17.3%の増加に寄与したのは、主にキイトルーダ（1,356億円、前年度比55.1%増）、タグリッソ（857億円、前年度比73.2%増）、イミフィンジ（297億円、前年度比271.1%増）、およびパージェタ（401億円、前年度比82.5%増）であった。
- 悪性腫瘍治療薬のサブカテゴリにおいて、モノクローナル抗体とプロテインキナーゼ阻害薬とを合わせた市場占有率は73.4%、前年度比21.8%増と成長している。一方、従来の悪性腫瘍治療薬（代謝拮抗剤、アルキル化薬、抗生物質、および白金製剤）は、低迷あるいは減少している。免疫チェックポイント阻害薬の総売上は、前年度比39.2%増の2,999億円であった。
- 循環器系疾患治療薬領域の「レニン・アンジオテンシン系作用薬」および「脂質異常症治療薬および動脈硬化治療薬」は、依然として上位10領域に入っているが、市場は縮小し続けている（それぞれ前年度比7.2%減、0.2%減）。アジルバ（売上758億円、前年度比7.5%増）およびザクラス（売上236億円、前年度比11.1%増）を除く、配合剤を含む全アンジオテンシンII受容体拮抗薬は特許切れを迎え、薬価引き下げや後発医薬品の参入により市場は大幅に縮小している。同様に、全スタチン製剤に後発医薬品が存在し、長期収載品の売上は前年度比16.6%減の614億円と減少しているため、脂質異常症治療薬市場も縮小している。

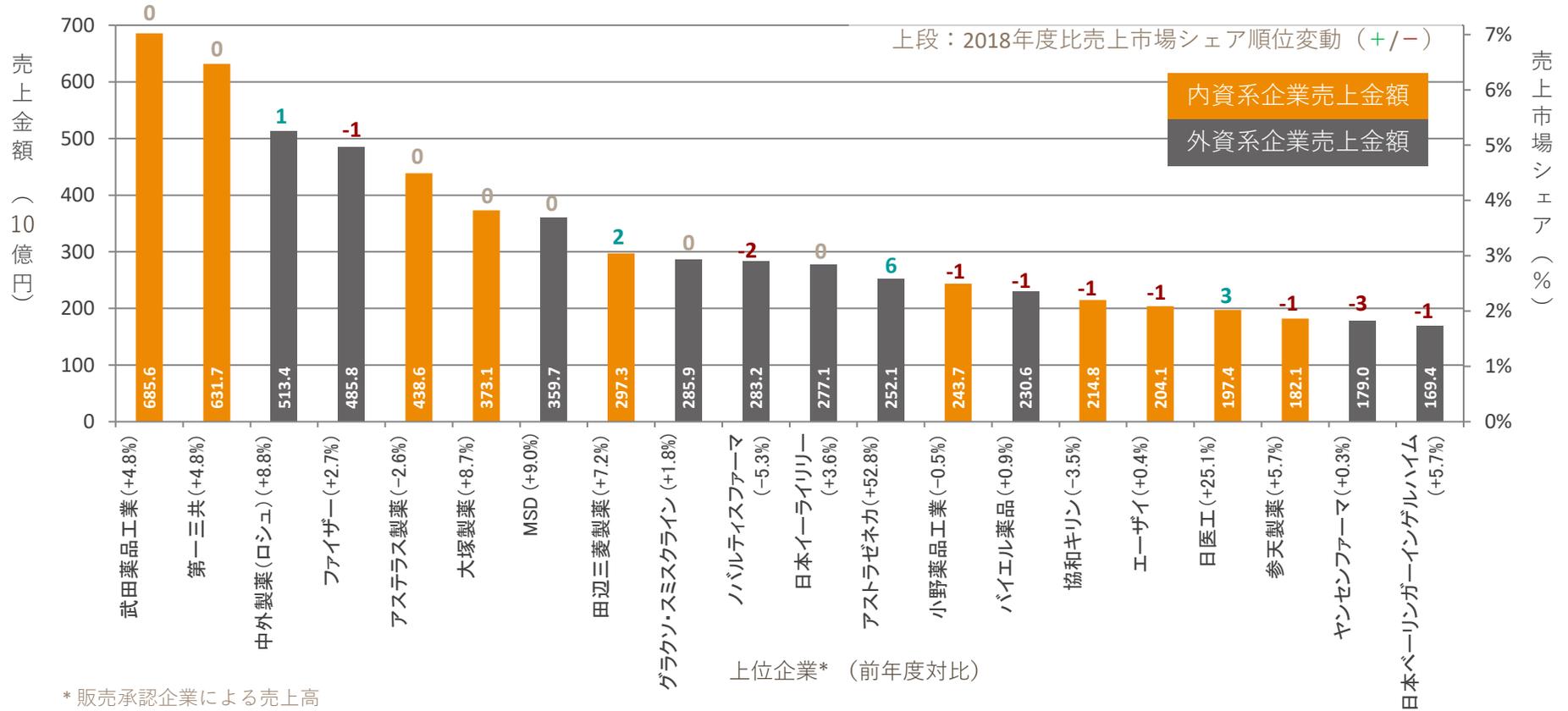
医療用医薬品売上上位20製品



* 同ブランドによる合計売上金額 (局所用剤を含む)

- 上位20製品の総売上は1兆6,447億円、医療用医薬品総売上の16.3%を占めている。
- 上位20製品の2019年度の総売上は2018年度と比較して5.9%増加した。売上増加に寄与した主な製品は、キイトルーダ[®] (前年度比55.1%増)、タグリッソ (前年度比73.2%増)、およびリクシアナ (前年度比28.2%増) であり、一方、マヴイレット (前年度比48.3%減) およびレミケード (前年度比9.1%減) などの売上は減少した。
- バイオ医薬品の売上は上位20製品の総売上の33.8%を占めている。2018年度と比較して2.8パーセントポイント (pp) 減少しており、要因としては、ネスブが2019年度の上位20製品に入っておらず、アバスタチン、オプジーボ、およびレミケードの売上が減少していることが考えられる。
- 2019年度上位20製品に入った製品：タグリッソ (第8位、前年度比73.2%増)、サインバルタ (第17位、前年度比11.8%増)
- 2019年度上位20製品から外れた製品：ネスブ (後発医薬品の参入の影響を受け、前年度比53%減)、モーラス (前年度比8.1%減)

医療用医薬品売上上位20社



- 上位20社の総売上は6兆5,047億円（前年度比5.2%増）、医療用医薬品総売上の64.4%（前年度比1.1 pp増）を占めている。
- 上位20社における内資系企業の売上と外資系企業の売上比率は、約53対47（2018年度は約54対46）であった。上位20社における内資系企業の総売上は3兆4,684億円（前年度比4.2%増）、外資系企業の総売上は3兆362億円（前年度比6.4%増）であった。
- 上位20社において、武田薬品工業および第一三共はそれぞれ第1位および第2位に留まり、4社はランクを上げている。4社中アストラゼネカは6ランク上がり、売上は前年度比52.8%増であった。要因は、タグリッソ（売上857億円、前年度比73.2%増）およびイミフィンジ（売上297億円、前年度比271.1%増）の売上増加、ならびにシムビコート（売上284億円）の販売移管であった。日医工は3ランク、田辺三菱製薬は2ランク、ファイザーは1ランク上がっている。